

有限会社大原工業

Pick Up!

平成27年度

事業計画名

医療用ポンプ製造用部品の設備導入とIoT技術による高度生産性向上事業

概要

本事業は、医療用バルブの製造工程を設備投資と自社技術開発により改良し、顧客からの受注から出荷までのリードタイム短縮と品質向上を目的とし、併せてIoTによる分析と監視から稼働率の大幅向上を実現し、高度生産性向上を目指します。

分類

＜対象類型＞ ものづくり技術

精密加工

立体造形

測定計測

＜事業類型＞ 高度生産性向上型・IoT

成果

ダイカスト成型の工夫、設備導入による機械加工時間の短縮及び検査方法の工夫による時間短縮に加え、生産監視システムによる稼働率の把握により生産率の大幅向上することが実現しました。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

有限会社大原工業（佐久市）

アルミや亜鉛を素材とするダイカストの世界で、あえて「できない」に挑戦し、新境地を開拓。

長野オリンピックの聖火トーチを製作

大原工業は、倒産したダイカストメーカーを当時従業員だった春原氏が社長として引き受けたことから始まります。設立の1984年から数年間は、仕事が少なく、社員3名で大変に苦労したそうです。当時から継続している仕事のひとつが、美術工芸品としての日本刀。「朝から晩まで刀をつくり続けた日もあります」と笑顔で振り返ります。



亜鉛ダイカストの日本刀

同社がターニングポイントを迎えたのは1997年。ほかのダイカスト工場が「できない」と断るなか、同社は長野冬季オリンピックで使われる聖火トーチの製作を「できる」と手をあげます。翌年、聖火トーチが同社製であることが発表されると、マスコミから取材が殺到し、春原社長も一躍時の人になりました。同社のダイカスト技術が脚光を浴び、仕事の問合せが増え、事業規模も拡大しました。

いま、同社は社員数約40名、手がけるダイカストは、電気設備、自動車、OA機器、精密機器、建築資材など多分野にわたっており、お客様も50



長野冬季オリンピックの聖火トーチ

社以上。「以前の会社倒産の経験を教訓として『お客様は広く浅く』を意識しました」と春原社長。リーマンショックの際は、自動車関連の受注が急激に落ち込んだものの、「決算時の利益はそれほど影響されなかった」と胸を張ります。

医療分野の技術を工場のスタンダードに

同社のいちばんの強みは、鋳造から加工までの一貫生産体制です。完成品は測定器にかけられ、必要なら証明書類を発行。より品質管理の行き届いた、付加価値の高いダイカスト製品をお客様に

提供しています。

品質を追求している同社が、数年前から力を入れているのが医療分野。平成27年度ものづくり補助金は、医療用バルブの製造工程を改良し、リードタイムの短縮と品質のさらなる向上を目指して活用されました。導入したのは電動ダイカストマシン、コンパクトマシンニングセンター、三次元測定機の3台。より高精度に、より品質基準が厳しくなる医療用バルブの製造で、これらの最新鋭マシンは高いパフォーマンスを発揮してくれました。「いちばん難しい仕事にトライして、それができれば、ほかの製品はもう平気でこなせる」と確信し、いま、旧型のダイカストマシンからこの最新鋭マシンへ、すべての入れ替え作業が急ピッチで進行中。



3次元測定器

「できるものしかやらなければ、それ以上に成長できないばかりか、落ち込んでしまうこともあります。他社が『できるかな?』と首をかしげ



電動ダイカストマシン

る製品に対しては、逆にどんどん挑戦していきたいですね」。春原社長は、そのチャレンジ精神を一筋に貫いています。



有限会社大原工業

代表 代表取締役社長 春原晃夫
設立 1984（昭和59）年2月
資本金 1,000万円 従業員数 37名
本社 佐久市甲字大原1633番地1

TEL.0267-58-3181 FAX.0267-58-3669

URL.https://ohara-kougyo.com/

事業内容 ダイカスト金型製作、鋳造、加工、切削試作品一式

